

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

3

(EKUTEBIAN VOL.14 MARCH 1986 EKUTEBIAN)

まい
あと●油絵「光のハーモニー」by 鈴木 青太郎



檜原村・払沢の滝

北秋川に入ってすぐのところ、払沢の滝がある。この払沢の滝が2月5日に完全結水した。昭和60年2月に結水して以来、11年ぶりのことである。滝壺に大蛇が棲むという伝説が残る神秘的なこの滝は、落差60メートルの4段からなり、日本の滝百選にも選ばれている。夏の滝の優美さは、厳寒期、結水して沈黙の重々しい自然のオブジェと変わる。沢の音が静かに響く中に氷の青さが目に染みいる。



滝への径を入ると「山の小さな美術館」があり、造形作家・友永詔三氏の作品が常設されている。さらに進むと、旧檜原村郵便局を移設した「フォレスト・ウィスパー」(木工芸館)がある。2階はホールでコンサートや俳句会に利用されている。自然散策の足休めに立ち寄るもよし。

微笑む一坪店

大きいことはいいことだ、の時代は遠く去った。山椒は小粒でピリリと辛いのがお好み、街にはスパイスがピリッと利いた人物がいるものだし、お店にしても一坪内外のスペースで堂々の存在感を示している場合がある。この立川にもありました。今月はそんな「超小規模店」を追ってみよう。



柴崎町2丁目の立川・青汁スタンド。健康ブームにジューススタンドもこのように変身する。一杯のカップに添えられる笑顔が、身体に一番良い薬かもしれない。



柴崎町2丁目のたばこボックスはなかむら卒。人は物を買う時に会話を楽しむ。自動販売機の中にも挨拶をするものがあるが、あたたかきを感じるものはない。



井上さんが経営する切手・印紙の販売所（柴崎町2丁目）。店としての主張は小さいながらも立派なものである。

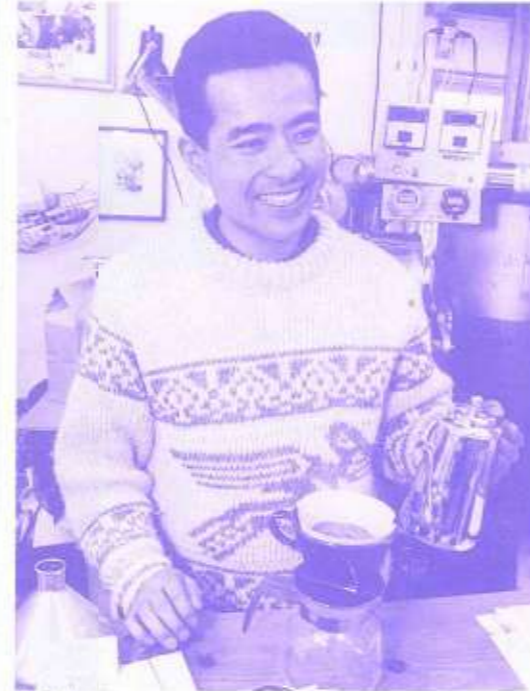
●新・贅沢のすゝめ

一杯のコーヒー



「一日に何杯となく、がぶがぶと飲んで...」
「一杯のコーヒー」だが、小松俊彦さんがいれてくれるコーヒーを飲んでみると、何気なく飲んでいる毎日のそれと同じ「コーヒー」という名で呼んでもいいものか、それ程にちがう。贅沢とは決して金を掛けることではない、むしろ意識の集

「コーヒー」の時代と...
「一杯のコーヒー」の味から...
「焙煎業者は、なま豆から焙煎された豆を引出す。消費者は焙煎された豆から焙煎切っている。」



「見本」としてコーヒーをいれる小松さん。

賢治を演ってみませんか
— 第5回立川演劇祭 —



第三回「たちかわ演劇祭」にて、新河岩の演劇「新河アツシ」

「たちかわ小ホール」●参加資格／三多摩に本拠を置く演劇団体および個人...
「たちかわ小ホール」●参加資格／三多摩に本拠を置く演劇団体および個人...
「たちかわ小ホール」●参加資格／三多摩に本拠を置く演劇団体および個人...

「マイバンク」がパートナー
心のほれみせ大助です
ハートの銀行
第一勧業銀行

最近「コンピュータ時代」とか、やれパソコン通信だ、やれインターネットだど騒いで...
「鉛筆」を吐いた。いわく、究極のコンピュータは「鉛筆」であるという。鉛筆の場合、ソフトにあたる部分は自分自身の頭脳だろうし、第一、鉛筆には電源がいらない、その上、小さい、軽い、なんとも驚くことに鉛筆は書くと同時に印刷されている仕組みである。それに安価なこと、他に類例がないのではないだろうか。1本百円するんじゃないか。



立井啓介 (月刊えくてびあん編集人)

鉛筆
リザベス王朝時代にイギリスのカンパランド山脈で黒鉛が発見され、これを棒状に加工して筆記用具にしたのが始まりだそうである。1795年にはニコラス・ジャック・コンテというフランス人が黒鉛と粘土を混合して、それを高温で焼き固めて芯を作る方法を考案している。この方法によって黒鉛と粘土の混合比率によって、濃度の変化が可能になった。今日に云うBとCと2とか4Bなんて記号はここから出ているという。

入・進学、就職、おめでとー！
門出にふさわしいモノ、ギフトとあります。
羽ばたく君は
へほんの一例
有田焼黄地香炉うさぎ
七宝ボールペン
一〇〇〇円
三、五〇〇円
三、八〇〇円
ハラエティー&ギフト
ジョイフルプラザ
JR立川駅南口諏訪通り ☎29-2772

表紙は語る
まいあーと油絵
「光のハーモニー」 by 鈴木真太郎
油絵を描く
かたわら羽衣
町で画廊を経営する鈴木さんは立川美術会に所属を置いて10年余り、なごるように描くというやり方は、ひとつ間違えればキャンパスをやぶってしまうほどだという。その迫力は鈴木さんの話し方や身ぶり、描かれた作品などすべてに共通するもの。独特の使い方があり、描かれた作品などは、今回の作品に描かれているのは、太陽の光を浴びる富士山。下積みを重ねて培われた描き方を見れば、その画家の師が誰であるか、おのずとわかるという。荒々しい絵を描く力は絵を描くことによって得られるのだと鈴木さんは言った。

真如苑だより
この間まで、うす汚れた残雪を、あちこちに見かけましたが、今は春、天も地もすっかり春色に仕上がりました。
春風は、いわれなく「希望」をかもし出してくださるようです。春風のふく午後、真如苑へお出掛けになりませんか。お待ち申し上げま

月刊「えくてびあん」発行号
平成八年三月、四月発行
発行所 えくてびあん編集工房
東京都立川市市場町2-17-5
杉田ビル5F 509号
電話 ☎0425-21175
FAX ☎0425-21175
編集発行人 立井啓介
印刷所 株式会社 立井啓介

Table of local businesses including 立川商店, セガミ薬局, マルミヤスポーツ, etc.

えくてびあんの輪
人があて、街があります。
あなたがあて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん/リストのお店にはいつでも えくてびあん/

Table of local businesses including ぼだい樹, コマツホーム, 喫茶キャリー, etc.



多摩川の朝

7

写真：鈴木克吉
短歌：佐久間美枝

おもむろに

夜のとぼりは

朱色に

移り川面に

朝霧のたつ